

第1回 江戸川区消防団運営委員会 次第

- 1 開 会
- 2 委員長挨拶
- 3 委員の紹介 資料1
- 4 報 告
前回の諮問に対する答申結果の概要説明 資料2
- 5 議 事
諮問について 資料3、4
- 6 審 議 予 定 資料5
- 7 そ の 他
 - (1) 江戸川区消防団の現況 別添え1
 - (2) 令和7年中の江戸川区災害状況 別添え2
 - (3) 「新たな消防団点検」実施結果 別添え3
 - (4) 諮問事項に対するアンケート調査（案） 別添え4
- 8 閉 会

【配付資料】

- 資料1 「江戸川区消防団運営委員会 委員名簿」
資料2 「特別区消防団運営委員会の答申を踏まえた対応方針について」
資料3 「東京都知事からの諮問文書」
資料4 「特別区消防団運営委員会への諮問事項について」
資料5 「江戸川区消防団運営委員会 審議予定」
- 別添え1 「江戸川区消防団の現況」
別添え2 「令和7年中の江戸川区災害状況」
別添え3 「新たな消防団点検実施結果」
別添え4 「諮問事項に対するアンケート調査（案）」

江戸川区消防団運営委員会 委員名簿

令和8年3月18日現在

		氏名	資格	委嘱年月日	備考
1	委員長	斉藤 猛	江戸川区長		
2	委員	宇田川聡史	学識経験者	令和7年7月23日 令和9年7月22日	都議会議員
3	委員	上田 令子	学識経験者	令和7年7月23日 令和9年7月22日	都議会議員
4	委員	竹平 ちはる	学識経験者	令和7年7月23日 令和9年7月22日	都議会議員
5	委員	関口 孟利	学識経験者	令和7年5月23日 在職任期中	江戸川 防火防災協会会長
6	委員	千倉 嘉一	学識経験者	令和5年6月15日 在職期間中	葛西 防火防災協会会長
7	委員	松下 幸博	学識経験者	平成30年5月20日 在職期間中	小岩 防火防災協会会長
8	委員	太田 彩花	消防団運営委員	令和7年5月26日 令和9年5月25日	区議会議員
9	委員	きもと 麻由	消防団運営委員	令和7年5月26日 令和9年5月25日	区議会議員
10	委員	佐々木 勇一	消防団運営委員	令和7年5月26日 令和9年5月25日	区議会議員
11	委員	田島 寛之	消防団運営委員	令和7年5月26日 令和9年5月25日	区議会議員
12	委員	鹿倉 勇	消防団運営委員	令和7年5月26日 令和9年5月25日	区議会議員
13	委員	間宮 由美	消防団運営委員	令和7年5月26日 令和9年5月25日	区議会議員
14	委員	川部 浩史	江戸川消防署長	令和6年4月1日 在職期間中	
15	委員	高橋 守忠	葛西消防署長	令和6年4月1日 在職期間中	
16	委員	熊井 規夫	小岩消防署長	令和7年4月1日 在職期間中	
17	委員	渡邊 登	江戸川消防団長	令和5年4月1日 在職期間中	
18	委員	関口 政男	葛西消防団長	令和4年4月1日 在職期間中	
19	委員	石井 紀明	小岩消防団長	令和7年4月1日 在職期間中	

1 諮問事項等

変化する社会情勢に適応し特別区消防団の組織力を向上させ住民の負託に応え続ける方策はいかにあるべきか

【審議期間】令和5年8月から令和7年3月まで（1年8か月）

2 諮問の趣旨

特別区消防団は、地域になくなくてはならない代替性のない存在であり、これまで地域防災力の中核として、住民の負託に応えてきたところであり、今後も東京の安全安心を守っていくため、消防団が将来にわたって更に充実し、消防団としての役割を果たしていく必要がある。

一方で、特別区においては、人口が2035年ごろに減少に転じ、2050年をピークに高齢化が進行すると予測されているほか、近年は、DXの進展による働き方の多様化や、単身世帯の増加による地域コミュニティの希薄化など、社会情勢は常に変化している。

このことから、各消防団や各区の特性なども踏まえながら、変化する社会情勢に適応し特別区消防団の組織力を向上させ、住民の負託に応え続ける方策について諮問がなされたものである。

3 主な答申と対応方針

凡例 ■ R7年度～ ■ 導入に向けた検討等 □ 継続して推進

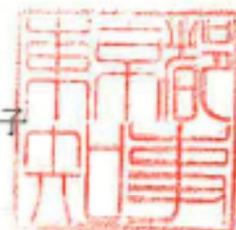
I 活動を継続したいと思える組織の活性化方策関係		
	主な答申	対応方針
①	訓練や都民指導の推進と負担軽減 ○可搬ポンプによる放水を伴う実戦的な訓練の推進 ○地域特性に応じた訓練の推進 ○火災以外の災害対応訓練の充実 ○防災や救急知識を活かした災害活動や訓練指導による地域貢献 ○消防団行事の内容見直しや効率的な訓練による負担軽減	□方面訓練場や署訓練施設の活用等、地域特性に応じた実戦的な訓練の推進 □工夫した訓練の取組紹介による時勢に応じた活動の推進 □火災出場時の確実な水利部署、積極的な消火活動の推進 ■災害や火災予防等の防災知識の向上 （総合防災部と連携したアプリやマイタイムラインの普及等） □防災訓練や総合防災教育における都民指導の推進 ■新たな消防団点検の試行による団員一人ひとりの訓練機会の創出と負担軽減
②	講習や研修の充実 ○既存の研修・講習の拡充及び取得資格を活かし続ける体制の確立 ○協力事業所団員や特殊技能団員などのあらゆる分野に長けた消防団員を講師とした知識技術の教養	■機関員技術や各種資機材取扱い技術の新たな講習や研修の検討 ■可搬ポンプ実技講習の実施による消火活動力の向上と拡大の検討 □特殊技能団員や研修受講者による消防団内での教養の推進
③	処遇の改善 ○管轄外に転居や転勤をしても、継続して活動できる体制の構築 ○団員報酬、費用弁償の増額 ○大規模災害団員や機能別団員を活用した入団促進及び退団抑制	■転居、転勤等により在団資格を失うこととなった場合においても継続して活動できる体制整備 ■処遇改善のための費用弁償の増額 □大規模災害団員の普及促進による入団促進・退団抑制

II 活動環境の充実・改善方策関係		
	主な答申	対応方針
① DX化の推進等	○タブレット端末を活用した消防団事務の効率化	■ タブレット端末更新に合わせた音声マイニングツールや多言語ツール導入に向けた検討による利便性の向上
	○緊急情報伝達システムや電話に代わるアプリ等を活用したスムーズな出場体制の確立	■ 出場指令や各種連絡事項を個人スマホで受信できる消防団専用アプリの市場調査の実施による導入に向けた検討
	○MCA無線の代替機種の見直し及び配置増強	■ MCA無線機の更新機種及び各種無線機類の配置の最適化に向けた検討
② より活動しやすい資機材への発展的更新	○より安全性の高い防火服への改良	■ ISO規格に準拠した新型防火服導入による安全性・機動力の向上 ■ 防火帽への階級標示シールによる消防署隊との連携強化の推進
	○瓦礫上でも容易に搬送できる運搬車の整備や各種装備資機材の軽量化・電動化	□ 既存資機材の更新に合わせた軽量化・電動化や耐久性の向上
	○分団本部の仮眠室や女性更衣室等の整備促進	□ 女性団員が活動しやすい環境（施設・服制）の整備推進
III 計画的な消防団員育成方策		
	主な答申	対応方針
① 教育訓練の改善	○経験豊富でリーダーシップのある消防団員からの訓練指導体制の確立	□ 指揮幹部研修終了団員による各消防団における訓練内容や指導体制等の主体的な検討促進
	○技量や経験に応じた目標設定や経験が浅い消防団員への教育体制の確立	■ 新入団員への東京消防団e-ラーニングシステムによる基礎教育の充実（試行） ■ 消防救助機動部隊への視察研修の実施による意識醸成
	○操法訓練と実動訓練の目安などの自主的な検討	□ 実戦的な訓練の継続した推進
② 教材の充実	○実戦的な訓練・東京都大会・全国大会の実施方法の乖離による負担増に対する対応	□ 実戦的な訓練と操法訓練のバランスなど消防団による主体的検討 ■ 新たな消防団点検の試行による検証
	○東京消防団e-ラーニングコンテンツの充実等ソフト面の強化	■ CG動画制作等による現場判断力や安全管理能力の向上 ■ 東京消防団e-ラーニングのコンテンツの更なる充実
	○経験の浅い消防団員に向けた教育訓練資料の充実	■ 災害現場で有圧水利等に部署する際の可搬ポンプ運用要領の整備
IV 消防団を地域住民により知ってもらう方策		
	主な答申	対応方針
① 地域や学校教育への参画	○区や町会主催の地域行事や防火防災訓練等による認知度向上	□ 総合防災教育における消防団員講師による防災の普及啓発の推進 □ 学校ネットワーク等を活用した地域連携への参画
	○消防少年団や総合防災教育における児童・生徒に対する防災指導	□ 防火防災訓練や総合防災教育における防火防災指導の推進
	○積極的な災害活動による地域貢献	□ 災害時における積極的な水利部署、下命に基づく放水活動の推進 □ 各区等と連携した消防団の地域貢献や協力事業所等の周知
② 募集広報の推進	○デジタルサイネージやSNSを活用した情報発信強化	□ 総合防災部、各区等と連携した多角的な広報の推進 □ X (旧Twitter)、YouTube等のSNSを活用した消防団活動の募集広報の推進
	○区報等の地域情報誌を活用した特別区消防団のPR	■ 声掛けによる募集広報の機会を更に創出するため、団員募集カードの導入
	○消防団体験の導入及び制度の構築	■ 特別区消防団トライアル（体験実習）の導入に向けた検討 ■ 各防災関係機関（日本郵政、自衛隊等）と連携した入団促進

7 東消防消第427号
令和7年6月23日

江戸川区消防団運営委員会
委員長 斉藤 猛 様

東京都知事 小池百合子



特別区の消防団の設置等に関する条例（昭和38年東京都条例第53号）第4条の規定に基づき、別紙のとおり諮問します。

1 諮問事項

「切迫する首都直下地震に備え、効果的な活動の実現に向けた災害活動力の継続的な強化方策について」

2 趣旨

令和6年元日に発生した能登半島地震では輪島市での大規模火災など17件の火災が発生し、消防団は自ら被災しながらも地域住民の命を守るため、避難の呼びかけや消火活動など懸命な活動を展開されました。

首都直下地震では600件を超える火災が発生すると想定されており、地域住民の安全安心を守るには、消防署隊との連携した訓練や活動はもちろん、消防団が主体的に実戦的な訓練を推進し、災害時に確実かつ効果的な活動を展開していくことが重要であり、地域の被害を軽減するためには、消防団の存在が必要不可欠です。

その実現に向けては、地域社会の多様化に対応するために様々な主体との連携や取組に関する検討を進めるとともに、消防団の災害活動力を継続的に高めることが重要であり、併せて消防団員の負担軽減にも配慮した取組が求められます。

これらを踏まえ、切迫する首都直下地震などの大規模災害に備え、効果的な活動の実現に向けた災害活動力を継続的に強化していくための方策について諮問するものです。

3 審議期間

令和7年7月から令和9年3月まで

4 答申期日

令和9年3月31日

特別区消防団運営委員会への諮問事項について

I 諮問事項

切迫する首都直下地震に備え、効果的な活動の実現に向けた災害活動力の継続的な強化方策について

II 諮問の趣旨

令和6年元日に発生した能登半島地震では輪島市での大規模火災など17件の火災が発生し、消防団は自ら被災しながらも地域住民の命を守るため、避難の呼びかけや消火活動など懸命な活動を展開されました。

首都直下地震では600件を超える火災が発生すると想定されており、地域住民の安全安心を守るには、消防署隊との連携した訓練や活動はもちろん、消防団が主体的に実戦的な訓練を推進し、災害時に確実かつ効果的な活動を展開していくことが重要であり、地域の被害を軽減するためには、消防団の存在が必要不可欠です。

その実現に向けては、地域社会の多様化に対応するために様々な主体との連携や取組に関する検討を進めるとともに、消防団の災害活動力を継続的に高めることが重要であり、併せて消防団員の負担軽減にも配慮した取組が求められます。

これらを踏まえ、切迫する首都直下地震などの大規模災害に備え、効果的な活動の実現に向けた災害活動力を継続的に強化していくための方策について諮問するものです。



III 課題

災害活動力の強化と訓練の実効性の向上

- 首都直下地震を想定した実戦的な訓練の推進
- 消防団が主体的に実施する実戦的な訓練の定着

消防団員の負担軽減と活動環境の最適化の必要性

- 様々な主体との連携や取組の強化による
震災時被害軽減方策の推進
- 消防団員の負担軽減に配慮した取組

災害活動力の強化と訓練の実効性の向上

首都直下地震を想定した実戦的な訓練の推進

- ・ 地震被害想定に関する知識向上方策
- ・ 地震を想定した訓練方法の検討
- ・ 地震対応資器材及び訓練に必要な資機材の整備

消防団が主体的に実施する実戦的な訓練の定着

- ・ 主体的、実戦的訓練の運営方策
- ・ 消防団単独での災害活動力の向上方策
- ・ 消防学校、消防署の支援体制の検討

消防団員の負担軽減と活動環境の最適化

様々な主体との連携や取組の強化による 震災時被害軽減方策の推進

- ・ 地域住民との更なる連携をするための取組方策
- ・ 他主体との連携による被害軽減方策
- ・ 他主体行事への積極的参加及び防火防災思想の定着

消防団員の負担軽減に配慮した取組

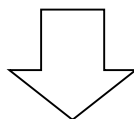
- ・ 効率的かつ効果的な活動、業務の実現
- ・ 続けやすい消防団を確立するための方策
- ・ 新たな消防団点検の本施行による負担軽減

江戸川区消防団運営委員会 審議予定

諮問事項	「切迫する首都直下地震に備え、効果的な活動の実現に向けた災害活動力の継続的な強化方策について」
------	---

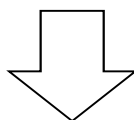
※審議期間：諮問日から令和9年3月末日まで

第1回 運営委員会 令和8年3月18日	○前回諮問の答申報告 ○今回諮問事項の趣旨説明・大項目の抽出
-------------------------------	-----------------------------------

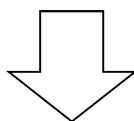


※ 各消防団へアンケート実施

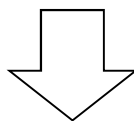
第2回 運営委員会 令和8年9月～10月（予定）	○答申骨子(中・小項目)の抽出・検討
------------------------------------	--------------------



事務局	審議内容を踏まえて答申案を作成
-----	-----------------



第3回 運営委員会 令和9年1月～2月（予定）	○ 答申案の検討・承認(答申決定)
-----------------------------------	-------------------



令和9年3月31日までに答申

江戸川区内消防団の現況

令和8年3月1日現在

1 江戸川区内消防団の現勢

		江戸川消防団	葛西消防団	小岩消防団	東京23区消防団
団長名		渡邊 登	関口 政男	石井 紀明	
分団数		10個分団	8個分団	8個分団	
可搬ポンプ数		32台	15台	31台	
定員数		350名	300名	450名	
現員数		287名	220名	405名	13,658名
充足率		82%	73%	90%	85.4%
区内平均充足率		82.9%			
内訳	男性	244名(85%)	178名(80%)	331名(81%)	10,402名 76.2(%)
	女性	43名(15%)	42名(20%)	74名(19%)	3,256名 23.8(%)
平均年齢		50.3歳	49.1歳	51.4歳	51.5歳
消防団協力事業所		3事業所	3事業所	5事業所	351事業所
事業所団員数		16名	23名	18名	1,252名
学生団員		15名	31名	17名	1,129名

2 令和7年中の消防団活動状況

区分	団別等	江戸川区内			
		江戸川消防団	葛西消防団	小岩消防団	
火災出場	件数	162	44	81	37
	人員	1,169	286	649	234
予防警戒	件数	1,067	301	504	262
	人員	10,590	2,673	4,137	3,780
教育訓練	件数	1,834	569	742	523
	人員	19,776	5,641	6,999	7,136
機械整備	件数	287	126	30	131
	人員	1,282	823	54	405
その他災害 (水災等)	件数	37	5	32	0
	人員	303	35	268	0

※ 数値は速報値です。

令和 7 年中の江戸川区内災害状況

1 江戸川区内火災件数等一覧表

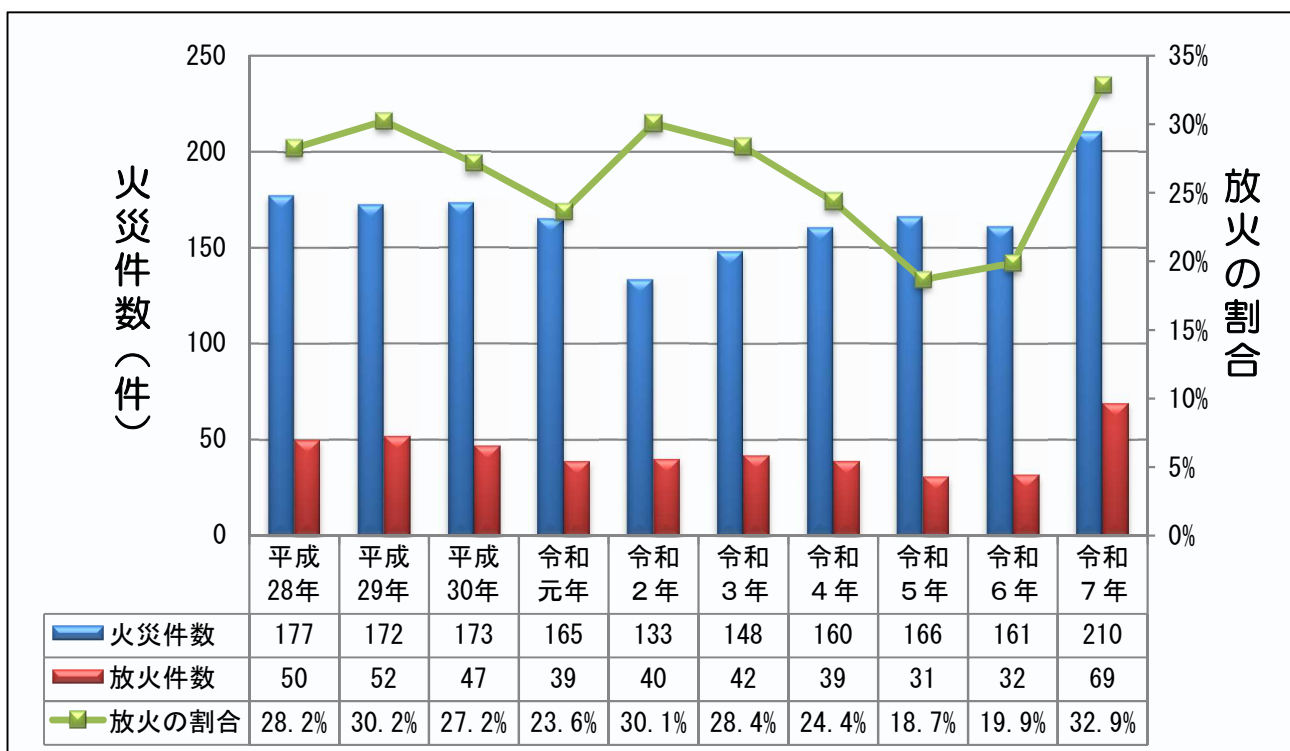
署別等 区分		江戸川区内				東京消防庁管内	
		合計	江戸川	葛西	小岩		
火 災 件 数	建 物 火 災	全 焼	2 (▼2)	1 (0)	0 (▼1)	1 (▼1)	7 1 (▼1 1)
		半 焼	2 (1)	0 (0)	0 (0)	2 (1)	7 5 (1 3)
		部分焼	1 2 (▼6)	5 (0)	6 (▼1)	1 (▼5)	4 5 3 (2 9)
		ぼ や	1 1 5 (1 9)	3 5 (4)	4 8 (7)	3 2 (8)	3, 1 9 2 (4 7 7)
		小 計	1 3 1 (1 2)	4 1 (4)	5 4 (5)	3 6 (3)	3, 7 9 1 (5 0 8)
	車両・船舶火災	1 6 (9)	4 (1)	7 (4)	5 (4)	2 5 5 (2 6)	
	その他火災	6 3 (2 8)	2 8 (1 7)	1 7 (1 0)	1 8 (1)	1, 2 1 3 (2 1 4)	
	合 計	2 1 0 (4 9)	7 3 (2 2)	7 8 (1 9)	5 9 (8)	5, 2 5 9 (7 4 8)	
焼損床面積 [㎡]		8 1 4 (1 5 0)	4 9 6 (4 1 5)	1 1 9 (▼2 7)	1 9 9 (▼2 3 8)	1 9, 1 0 4 (▼7, 3 8 7)	
死 者		5 (▼2)	1 (1)	1 (▼2)	3*3 (▼1)	9 1 (▼3)	
負傷者		4 6 (▼1 4)	1 3 (▼2 0)	2 1 (5)	1 2 (1)	9 2 8 (1 3 4)	
主 な 出 火 原 因	放火(疑い含む) [件]	6 9 (3 7)	3 2 (2 3)	1 5 (5)	2 2 (9)	7 4 7 (8 2)	
	たばこ [件]	2 2 (1)	7 (▼1)	1 1 (5)	4 (▼3)	6 4 3 (1 4 1)	
	ガステーブル等 [件]	2 1 (▼5)	3 (▼2)	1 1 (1)	7 (▼4)	3 5 3 (1 4)	

※1 数値は速報値です。カッコ内の数値は前年比で、▼印は減少を示します。

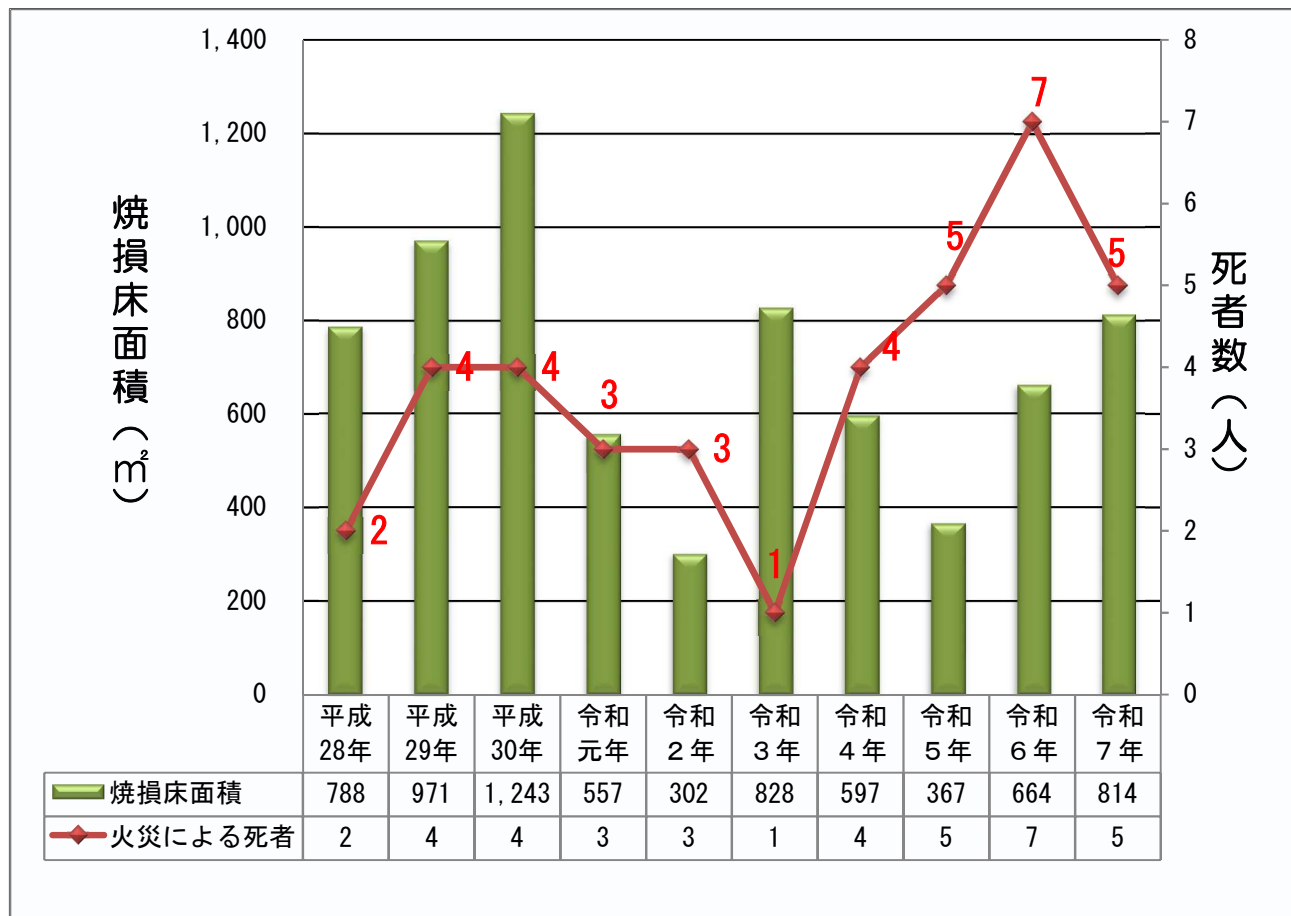
※2 火災種別等では、林野、航空機、治外法権を除いています。

※3 自損者 2 名を含みます。

2 江戸川区内における全火災件数と放火件数の推移（過去10年間）

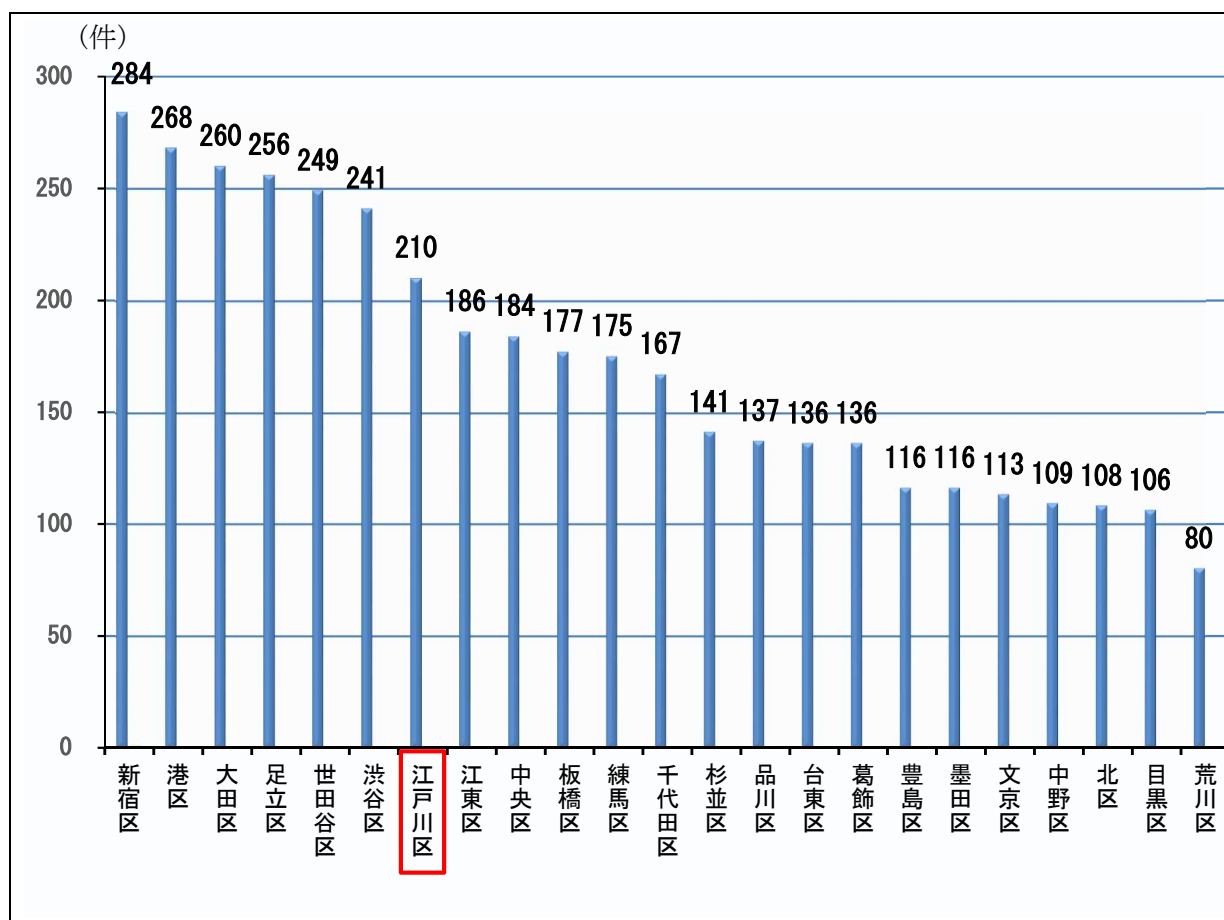


3 江戸川区内における焼損床面積と死者の推移（過去10年間）

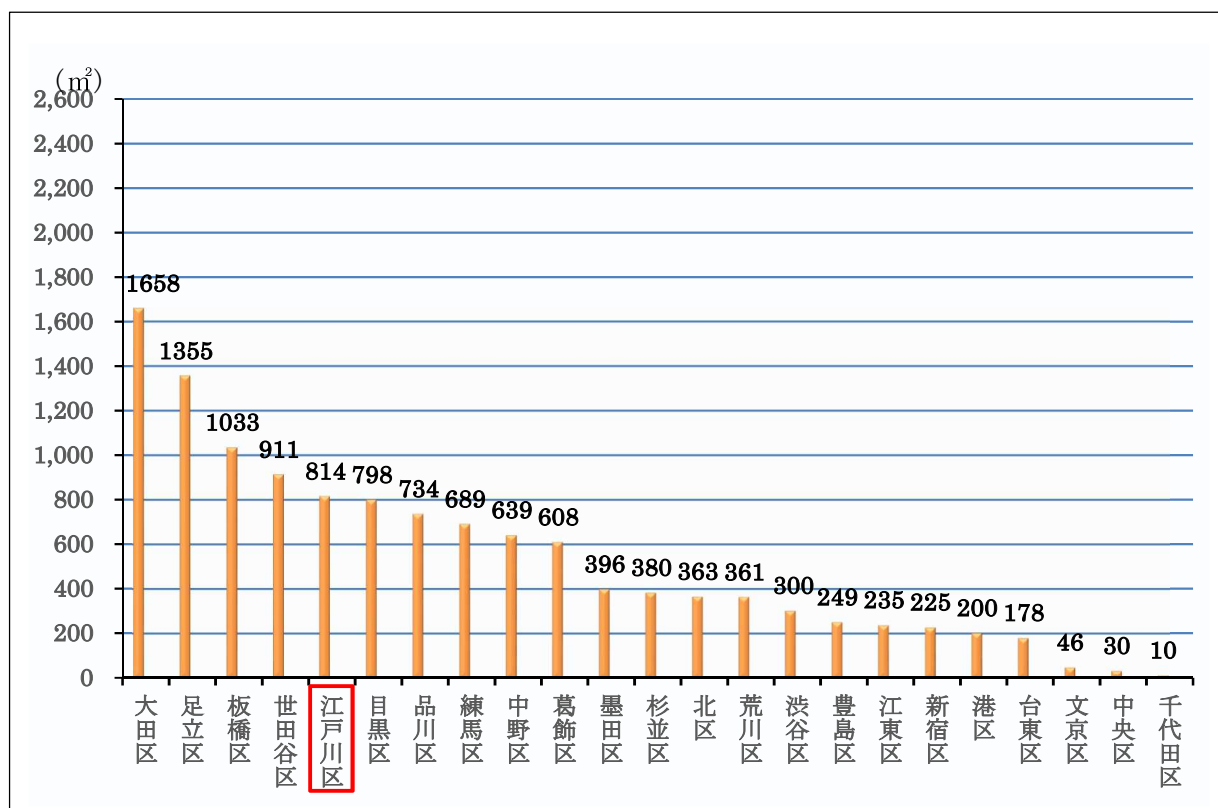


※ 火災による死者数には、自損者数を含みます。

4 東京23区内の火災件数（令和7年中）



5 東京23区内の焼損床面積（令和7年中）



新たな特別区消防団点検の実施概要について

江戸川消防団

1 日時

令和7年10月26日(日)

13時00分から15時30分まで

2 場所

夢の島消防訓練場

3 実施概要

東京地方に震度7の地震が発生し、震災第二非常配備態勢が発令された際の、消防団本部と署隊本部が連携した出場命令から延焼阻止線の設定までの一連の火災活動能力向上を目標とした、実戦的活動訓練を新たな消防団点検として実施しました。

団本部からの出場命令により、先着した分団がMCA無線機及びタブレット端末を活用し団本部へ延焼状況の報告及び応援要請を実施しました。応援要請で出場した分団により放水口数を増強した延焼阻止線の設定、長時間火災防御を見据えた筒先交代要領、水槽への充水措置等総合的な活動訓練を実施しました。

訓練を通じ、火面長に応じた必要口数や延焼阻止線の設定、消火栓が使用不能の際の充水要領等、通常時と震災時における火災対応要領の違いについても教養を深めることができました。

実施後のアンケートにおいて、今回の団点検は災害対応能力の向上に繋がる等、新たな団点検を推奨する意見が多数挙がりました。

4 写真



実施目標等

点検実施目標	震災時における活動要領
点検確認項目	1 消防団が主体となった火災対応要領 2 火面長、延焼阻止線を意識した放水要領 3 長時間活動における中継要領 4 MCA無線機を活用した状況報告、応援要請要領 5 タブレット端末を活用した団本部との情報共有要領 6 団本部と署隊本部との連携要領

新たな特別区消防団点検の実施概要について

葛西消防団

- 1 日時
令和 7 年 1 1 月 2 3 日 (日) 9 時 0 0 分から 1 2 時 0 0 分まで
- 2 場所
夢の島消防訓練場
- 3 実施概要

東京消防庁夢の島訓練場において、より多くの消防団員が実戦的な訓練を実施し、消防団員一人一人の災害活動能力の底上げを図ることを目的として、実戦的な訓練を新たな消防団点検として実施しました。

火災想定総合訓練として、分団格納庫近くで建物火災が発生、消防団本部からの出場要請により、消防団先着による活動要領、消防団現場本部運営要領、先着消防団員指揮による活動要領を行い、隣棟へ延焼拡大中で複数分団での消火活動訓練を実施しました。

また、夢の島訓練場、走行訓練コースを活用して緊急走行訓練を実施し、赤信号交差点進入時の確実な一時停止及び車載拡声器の有効活用について再確認を実施しました。

- 4 写真

点検実施目標	基本に忠実な消防活動要領
点検確認項目	<ol style="list-style-type: none"> 1 消防団先着による消防活動要領 2 地図による出場指令番地の確認、予定水利の確認及び緊急走行要領 3 消防団現場本部運営要領 4 先着消防団員(上位階級)の指揮要領、情報収集、応援要請 5 ホース延長、放水要領 6 安全管理要領



新たな特別区消防団点検の実施概要について

小岩消防団

1 日時

令和7年10月26日(日)
9時00分から16時30分

2 場所

小岩消防署裏庭及び訓練棟

3 実施概要

震災時や大規模災害時の災害活動力の向上を目標とした実戦的な訓練を、新たな消防団点検として実施しました。分団ごとに震災時を想定した火災出場を要請し、要請を受けた分団が防火衣等を着装、現場までの経路や消防水利を確認した後、可搬ポンプ積載車により緊急走行し、現場に向かいます。火災現場では、消防団が先着して自ら考え行動します。関係者から情報収集し、火災の状況、けが人の有無を確認した後、無線で消防団本部へ報告します。防火水槽から可搬ポンプで水を送り、出火建物へ放水したところで、到着した消防隊に報告、追加でホースを延長し、2か所からの放水が継続してできた時点で終了としました。首都直下地震や大規模災害時には、消防団が単独で主体的に活動していくことが重要であり、今回実戦に即した訓練を実施でき、災害活動力の強化に成果がありました。今後の活動に対する課題も明らかになり、各分団で反復して訓練を実施します。

4 写真

点検実施目標	基本に忠実な消防活動要領
点検確認項目	1 出場要請の確認、水利選定 防火衣着装要領、出場順路の確認 2 緊急走行要領 3 防火水槽吸水要領 4 分団長による指揮活動、情報収集 無線報告要領 5 ホース延長要領、放水要領 6 消防隊への報告要領



江戸川区消防団運営委員会の諮問事項に対するアンケート調査（案）

小岩消防団事務局では、江戸川区消防団運営委員会の諮問事項である「切迫する首都直下地震に備え、効果的な活動の実現に向けた災害活動力の継続的な強化方策について」検討しております。

是非、消防団員の皆様からご意見をお聞かせください。

ご多忙中恐縮ですが、ご回答いただけますようお願い申し上げます。

【Q1】あなたの階級を教えてください。
1. 団員 2. 班長 3. 部長 4. 副分団長 5. 分団長 6. 副団長以上
【Q2】あなたの年齢を教えてください。
1. 10代 2. 20代 3. 30代 4. 40代 5. 50代 6. 60代以上
【Q3】あなたの性別を教えてください。
1. 男性 2. 女性 3. その他
【Q4】あなたの職業を教えてください。
1. 経営者 2. 自営業・自由業 3. 会社員 4. パート・アルバイト 5. 学生 6. 主婦・主夫 7. 無職 8. その他
首都直下地震に備え、効果的な活動を実施するためには、首都直下地震を想定した実践的な訓練が必要だと考えられます。あなたのご意見をお聞かせください。
【Q5】東京都の新たな被害想定～首都直下地震等による東京の被害想定～（令和4年5月 東京都防災会議）について、どれくらい知っていますか？ ※ 1つ選択
<input type="checkbox"/> よく知っている <input type="checkbox"/> だいたい知っている <input type="checkbox"/> 少し知っている <input type="checkbox"/> 知らない
【Q6】首都直下地震が発生した際、どのような被害が発生するのか、消防団がどのように活動すべきか等の知識を向上していく為に効果的であるものは何ですか？ ※ 1つ選択
<input type="checkbox"/> eラーニング等の学習ツール <input type="checkbox"/> 消防学校等研修での授業 <input type="checkbox"/> 消防署での教養 <input type="checkbox"/> 有識者からの講義 <input type="checkbox"/> スマートフォン、タブレット等での自己学習 <input type="checkbox"/> その他（ ）
【Q7】首都直下地震への対応の為、地震被害を想定した訓練を今以上に推進する必要があると考えますが、具体的にどのような訓練が必要だと考えますか ※ 1つ選択
<input type="checkbox"/> 消防署と連携した訓練 <input type="checkbox"/> 自治体や事業所と連携した訓練 <input type="checkbox"/> 震災時を想定した長時間の継続活動訓練 <input type="checkbox"/> 情報途絶を前提にした共有訓練 <input type="checkbox"/> eラーニングを活用した教育訓練 <input type="checkbox"/> その他（ ）
【Q8】地震対応資器材について、現有する資器材以外に必要なものはありますか？ ※ 複数回答可
<input type="checkbox"/> 削岩機やエンジンカッター等の破壊資器材 <input type="checkbox"/> カメラや探査器具等の検索資器材 <input type="checkbox"/> レスキューサポート（倒壊建物への支柱）や空気式救助器具等の救助資器材 <input type="checkbox"/> その他（ ）
【Q9】その他、首都直下地震を想定した実践的訓練の推進について、具体的な意見、提案があれば教えてください ※ 自由回答

